

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2008年8月28日から2023年8月15日まで
運用方針	安定した配当等収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。
主要運用対象	ベビー ファンド モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド受益証券、モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。ただし、直接債券および短期金融商品等に投資する場合もあります。
	マザー ファンド モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド、モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンドの各ページをご参照ください。
組入制限	ベビー ファンド マザーファンド受益証券への投資割合には、制限を設けません。株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。株式への実質投資は、新株予約権付社債等の権利行使等により取得した株券等に限ります。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザー ファンド モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド、モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンドの各ページをご参照ください。
分配方針	<毎月分配型>原則として、毎決算時(毎月15日)、ただし、決算日が休業日の場合は翌営業日に、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収益と売買益(評価益を含みます。)等から配当等収益等を中心で安定した分配を行ふことを基本とします。ただし、基準価額水準等を勘案して安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。(ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないこともあります。)<年2回決算型>原則として、毎決算時(2月15日および8月15日)、ただし、決算日が休業日の場合は翌営業日)に、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収益と売買益(評価益を含みます。)等から基準価額水準等を勘案して分配金額を決定します。(ただし、委託者の判断により分配を行わないこともあります。)収益の分配にあてなかつた利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

運用報告書に関するお問い合わせ先

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント株式会社
業務部

〒100-8109 東京都千代田区大手町一丁目9番7号
大手町フィナンシャルシティ サウスタワー

電話番号: 03-6836-5140

受付時間: 営業日の午前9時~午後5時

ホームページ: www.morganstanley.com/im/jp

お客様のお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

Morgan Stanley

モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信 (毎月分配型) (年2回決算型)

運用報告書(全体版)

(毎月分配型)

第138期(決算日 2020年3月16日)

第139期(決算日 2020年4月15日)

第140期(決算日 2020年5月15日)

第141期(決算日 2020年6月15日)

第142期(決算日 2020年7月15日)

第143期(決算日 2020年8月17日)

(年2回決算型)

第24期(決算日 2020年8月17日)

受益者のみなさまへ

毎々格別のお引立てにあざかり厚くお礼申し上げます。

さて、「モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信(毎月分配型)」は、第138期~第143期までの決算、「モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信(年2回決算型)」は、第24期の決算を行いましたので当期の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

■最近5作成期の運用実績

作成期	基準価額 (分配額)	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	純資産額
		税分配	込金	期騰落率			
第20作成期	114期（2018年3月15日）	円 5,469	円 30	% △1.2	% 97.7	% —	百万円 3,999
	115期（2018年4月16日）	5,458	30	0.3	97.3	—	3,971
	116期（2018年5月15日）	5,314	30	△2.1	86.3	—	3,845
	117期（2018年6月15日）	5,129	30	△2.9	86.7	—	3,678
	118期（2018年7月17日）	5,227	30	2.5	96.2	—	3,723
	119期（2018年8月15日）	4,916	30	△5.4	96.2	—	3,452
第21作成期	120期（2018年9月18日）	4,870	30	△0.3	95.8	—	3,392
	121期（2018年10月15日）	4,933	30	1.9	96.1	—	3,393
	122期（2018年11月15日）	5,065	30	3.3	97.2	—	3,424
	123期（2018年12月17日）	5,026	30	△0.2	93.3	—	3,366
	124期（2019年1月15日）	4,906	30	△1.8	96.2	—	3,332
	125期（2019年2月15日）	4,960	30	1.7	96.4	—	3,346
第22作成期	126期（2019年3月15日）	4,966	30	0.7	96.5	—	3,323
	127期（2019年4月15日）	4,963	30	0.5	96.4	—	3,308
	128期（2019年5月15日）	4,719	30	△4.3	96.7	—	3,140
	129期（2019年6月17日）	4,713	10	0.1	96.3	—	3,105
	130期（2019年7月16日）	4,829	10	2.7	97.4	—	3,085
	131期（2019年8月15日）	4,581	10	△4.9	97.7	—	2,895
第23作成期	132期（2019年9月17日）	4,703	10	2.9	96.7	—	2,954
	133期（2019年10月15日）	4,687	10	△0.1	96.8	—	2,920
	134期（2019年11月15日）	4,720	10	0.9	97.0	—	2,885
	135期（2019年12月16日）	4,816	10	2.2	96.6	—	2,871
	136期（2020年1月15日）	4,866	10	1.2	89.0	—	2,846
	137期（2020年2月17日）	4,761	10	△2.0	97.9	—	2,703
第24作成期	138期（2020年3月16日）	4,308	10	△9.3	96.6	—	2,371
	139期（2020年4月15日）	4,165	10	△3.1	86.2	—	2,283
	140期（2020年5月15日）	4,150	10	△0.1	96.6	—	2,260
	141期（2020年6月15日）	4,392	10	6.1	96.5	—	2,382
	142期（2020年7月15日）	4,403	10	0.5	96.9	—	2,361
	143期（2020年8月17日）	4,361	10	△0.7	97.0	—	2,313

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注3) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指標がないためベンチマークおよび参考指標は設定しておりません。

■ 当作成期中の基準価額等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		債券組入比率	債券先物比率
		騰 落 率	基 準 価 額		
第138期	(期 首) 2020年2月17日	円 4,761	% —	% 97.9	% —
	2月末	4,623	△2.9	97.2	—
	(期 末) 2020年3月16日	4,318	△9.3	96.6	—
第139期	(期 首) 2020年3月16日	4,308	—	96.6	—
	3月末	4,176	△3.1	96.8	—
	(期 末) 2020年4月15日	4,175	△3.1	86.2	—
第140期	(期 首) 2020年4月15日	4,165	—	86.2	—
	4月末	4,168	0.1	76.3	—
	(期 末) 2020年5月15日	4,160	△0.1	96.6	—
第141期	(期 首) 2020年5月15日	4,150	—	96.6	—
	5月末	4,319	4.1	96.1	—
	(期 末) 2020年6月15日	4,402	6.1	96.5	—
第142期	(期 首) 2020年6月15日	4,392	—	96.5	—
	6月末	4,370	△0.5	96.9	—
	(期 末) 2020年7月15日	4,413	0.5	96.9	—
第143期	(期 首) 2020年7月15日	4,403	—	96.9	—
	7月末	4,363	△0.9	97.2	—
	(期 末) 2020年8月17日	4,371	△0.7	97.0	—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注3) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指標がないためベンチマークおよび参考指標は設定しておりません。

ミルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（年2回決算型）

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配額)	基 準 価 額			債券組入比率	債券先物比率	純資産額
		税 分 配	込 金	期 謄 落 率			
20期（2018年8月15日）	円 8,985	円 0	% △8.3	% 96.4	% —	百万円 1,050	
21期（2019年2月15日）	9,372	0	4.3	96.6	—	1,024	
22期（2019年8月15日）	8,871	0	△5.3	97.9	—	893	
23期（2020年2月17日）	9,338	0	5.3	97.5	—	874	
24期（2020年8月17日）	8,635	0	△7.5	97.5	—	781	

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注3) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	基 準 価 額			債券組入比率	債券先物比率	券率
		騰 落 率	%	%			
(期 首) 2020年2月17日	円 9,338	% —	% 97.5	% —			
2月末	9,060	△3.0	97.5	—			
3月末	8,184	△12.4	97.4	—			
4月末	8,186	△12.3	78.1	—			
5月末	8,509	△8.9	96.7	—			
6月末	8,628	△7.6	97.4	—			
7月末	8,627	△7.6	98.0	—			
(期 末) 2020年8月17日	8,635	△7.5	97.5	—			

(注1) 謄落率は期首比です。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

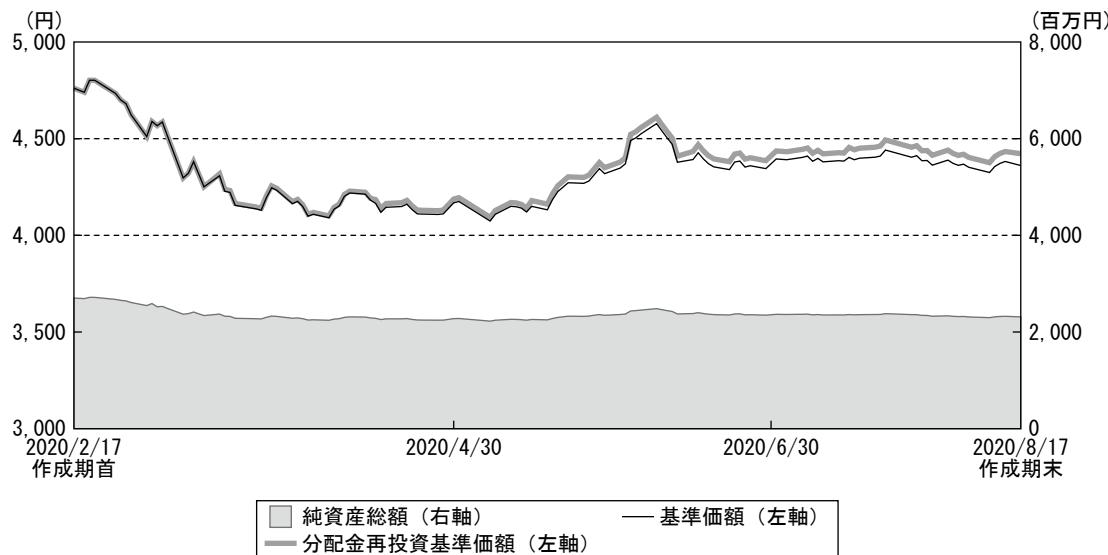
(注3) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

■運用経過（2020年2月18日から2020年8月17日まで）

モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（毎月分配型）

基準価額等の推移



第138期首：4,761円
第143期末：4,361円（既払分配金60円）
騰落率：△7.1%（分配金再投資ベース）

（注1）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。分配金再投資基準価額は、作成期首の値を基準価額と同値にして指数化しています。

（注2）分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

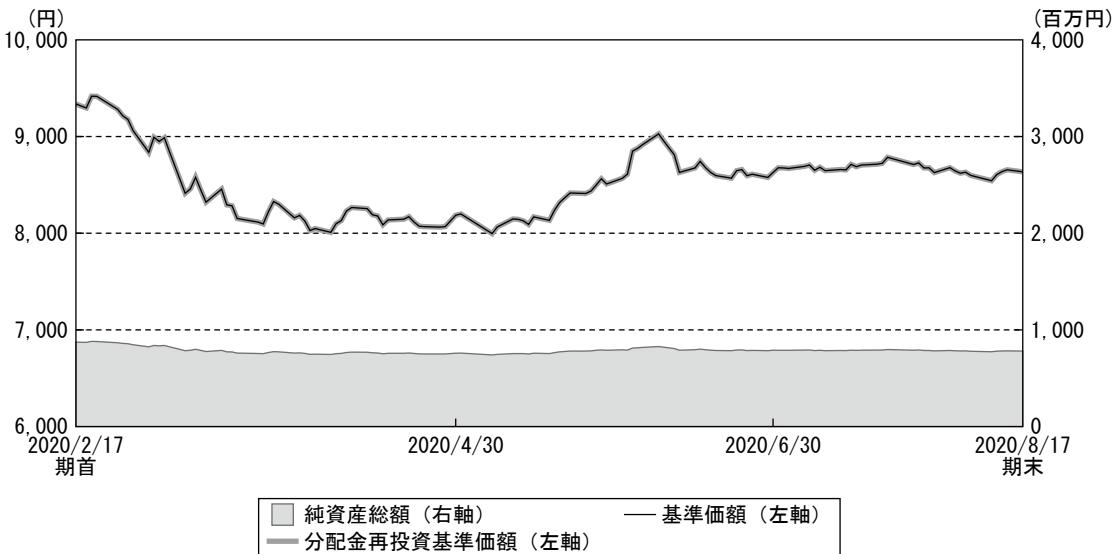
（注3）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指標がないためベンチマークおよび参考指標は設定しておりません。

基準価額の主な変動要因

当作成期は、安定したインカム・ゲインを獲得した一方で、為替市場において高金利通貨が平均的に対日本円で下落したため、基準価額は下落し、作成期首に4,761円でスタートした基準価額は作成期末には4,371円（第143期分配金10円込み）となりました。

モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（年2回決算型）

基準価額等の推移



第24期首：9,338円
第24期末：8,635円（既払分配金0円）
騰落率：△7.5%（分配金再投資ベース）

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額と同値にして指教化しています。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指教がないためベンチマークおよび参考指教は設定しておりません。

基準価額の主な変動要因

当期は、安定したインカム・ゲインを獲得した一方で、為替市場において高金利通貨が平均的に対日本円で下落したため、基準価額は下落し、期首に9,338円でスタートした基準価額は期末には8,635円となりました。

投資環境

新型コロナウィルスの世界的な感染拡大を背景とした、グローバル経済の急激な悪化懸念や、金融市場におけるリスク回避的な動きを受けて、特に3月にかけて高金利通貨は大幅に下落しました。一方、その後は、各国の政府、中央銀行による一連の経済対策や市場対策を受けて、リスク回避的な動きが和らぎ、高金利通貨は徐々に安定化する展開となりました。

ポートフォリオ

ポートフォリオの運用においては、マザーファンドへの投資を通じて相対的に金利水準が高く為替見通しが良好な先進国と新興国の10通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行いました。投資にあたっては各マザーファンドの投資対象候補国の中から相対的に金利水準の高い通貨／国を選定し、経済ファンダメンタルズ、各国の経済・財政政策、為替のトレンド等を分析し為替見通しが良好な通貨／国を投資対象としました。

(1) 投資通貨について

期首には、マザーファンドへの投資を通じて、相対的に金利水準が高く為替見通しが良好な以下の10通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行いました。

《期首の投資対象通貨》

●モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド

オーストラリア・ドル
ニュージーランド・ドル
ノルウェー・クローネ
米ドル
ポーランド・ズロチ

●モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド

メキシコ・ペソ
ブラジル・レアル
インドネシア・ルピア
南アフリカ・ランド
トルコ・リラ

期首より中長期的な観点からバリュエーションや相対的な金利水準、経済ファンダメンタルズ等の通貨に対する投資魅力度が変化していないと判断し投資通貨の入替を行いませんでした。

《期末の投資対象通貨》

●モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド

オーストラリア・ドル
ニュージーランド・ドル
ノルウェー・クローネ
米ドル
ポーランド・ズロチ

●モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド

メキシコ・ペソ
ブラジル・レアル
インドネシア・ルピア
南アフリカ・ランド
トルコ・リラ

(2) 投資債券について

各国の経済動向に注視し、国債を中心に組入れつつ、インカム・ゲインを主体とした収益の獲得を目指しました。

ベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、運用の目標となるベンチマークおよび参考指数は設定しておりませんので、当項目に記載する事項はありません。

分配金

（毎月分配型）

当成期の収益分配金につきましては基準価額水準等を勘案し、1万口当たり第138期～143期各10円（作成期中合計60円）とさせていただきました。第143期におけるボーナス分配につきましては見送らせていただきました。なお、収益分配金にあてなかった利益につきましては、投資信託財産中に留保し運用の基本方針に基づいて運用いたします。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期	第143期
	(2020年2月18日～2020年3月16日)	(2020年3月17日～2020年4月15日)	(2020年4月16日～2020年5月15日)	(2020年5月16日～2020年6月15日)	(2020年6月16日～2020年7月15日)	(2020年7月16日～2020年8月17日)
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.232%	10 0.240%	10 0.240%	10 0.227%	10 0.227%	10 0.229%
当期の収益	10	10	10	10	10	10
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	100	104	107	118	124	132

（年2回決算型）

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準等を勘案し、期中に生じた利子等の分配原資に関しては、収益分配を見送りました。なお、収益分配金にあてなかった利益につきましては、投資信託財産中に留保し運用の基本方針に基づいて運用いたします。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	当期
	(2020年2月18日～2020年8月17日)
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,134

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの收益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の数値は円未満を切捨てているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

今後の運用方針に関しては、運用の基本方針に基づき、マザーファンドへの投資を通じて各マザーファンドの投資対象候補国の中から相対的に金利水準の高い通貨／国を選定し、経済ファンダメンタルズ、各国の経済・財政政策、為替のトレンド等を分析し為替見通しが良好な先進国と新興国の10通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行う方針です。当面の市場環境および投資方針は以下の様に考えております。

(1) 市場環境について

欧米各国では経済再開の動きが徐々に確認されつつあり、また、足元の経済指標は懸念された程には悪化していないものの、今後についても引き続き新型コロナウイルス感染動向次第の側面が強く不透明感の強い展開が想定されます。一方、先進国主要中銀による金融緩和政策が強化されていることを背景に、先進国債券市場を中心に低金利環境が長期化する中、金融市場が落ち着きを取り戻すに従い、高金利通貨に対しては相対的に高い利回りを求めるような投資家からの資金フローが期待されると考えています。

新興国に関しても、グローバルに緩和的な金融政策がサポート要因として期待されます。リスク回避的な米ドル高の可能性は警戒されるものの、これまでの積極的な米ドル供給策が米ドルの上昇を抑制する要因となり、5月以降徐々に米ドル安傾向に転じていることは、新興国通貨のサポート要因になると考えられます。なお、資源価格下落の恩恵を受けやすい経済構造の国がある一方で、資源依存の経済構造の改革が必要な国があることや、新型コロナウイルス問題の影響次第では、経済ファンダメンタルズの格差が広がりやすいことに注視が必要と考えています。

今後も一部の通貨のボラティリティが高まる状況が見られる可能性は残るもの、10通貨に分散することで一部通貨の影響を軽減することが出来ると考えています。加えて、中長期的には高金利通貨への投資により比較的高いキャリーを積み上げることがパフォーマンスの下支えになると期待されます。

(2) 投資方針について

以上のような見通しのもと、当ファンドでは、相対的に高金利で経済ファンダメンタルズが良好であり、通貨見通しが良好な通貨／国へ投資を行う方針です。また、組入債券においては、各国の国債を中心に投資し、インカム・ゲインを中心に安定した収益獲得を目指す方針です。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第138期～第143期 (2020年2月18日～2020年8月17日)		項目の概要
	金額	比率	
a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	23円 (11) (11) (1)	0.520% (0.246) (0.246) (0.027)	a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	4 (2) (1) (1)	0.085 (0.035) (0.013) (0.037)	b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合計	27	0.605	
当作成期中の平均基準価額は、4,336円です。			

(注1) 作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

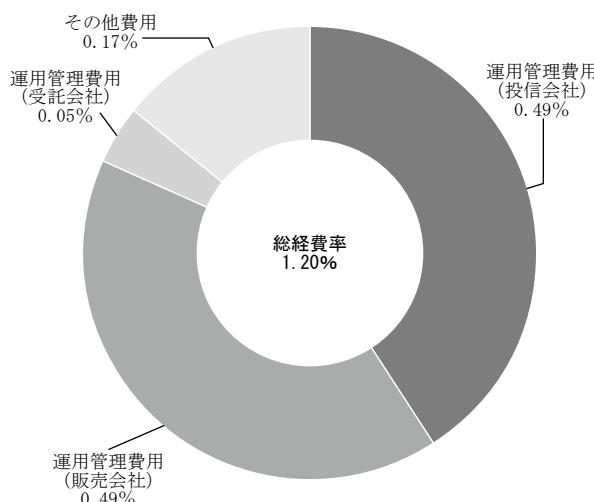
(注2) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 「金額」欄は、各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

(参考情報) 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.20%です。



(注1) 各費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（毎月分配型）

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況（2020年2月18日から2020年8月17日まで）

決 算 期	第 138 期 ～ 第 143 期				
	設 定		解 約		
	口 数	金 額	口 数	金 額	
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド	千口 2,170	千円 2,129	千口 120,425	千円 120,374	
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド	2,201	2,129	120,510	120,374	

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2020年2月18日から2020年8月17日まで）

作成期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細

(2020年8月17日現在)

親投資信託残高

種 類	第 23 作 成 期 末	第 24 作 成 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド	千口 1,321,562	千口 1,203,307	千円 1,250,958
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド	1,226,683	1,108,374	1,046,415

(注1) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当作成期末におけるモルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド全体の口数は1,591,550千口、モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド全体の口数は1,507,045千口です。

■投資信託財産の構成

(2020年8月17日現在)

項 目	第 24 作 成 期 末	
	評 価 額	比 率
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド	千円 1,250,958	% 53.8
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド	1,046,415	45.0
コ ー ル・ロ ー ン 等、そ の 他	27,052	1.2
投 資 信 託 財 産 総 額	2,324,425	100.0

(注1) モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産（1,660,321千円）の投資信託財産総額（1,662,220千円）に対する比率は99.9%です。

(注2) モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産（1,423,147千円）の投資信託財産総額（1,430,564千円）に対する比率は99.5%です。

(注3) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので、なお、2020年8月17日における邦貨換算レートは、1米ドル=106.55円、1メキシコペソ=4.85円、1ブラジルレアル=19.64円、1ノルウェークローネ=11.99円、1トルコリラ=14.47円、1ポーランドズロチ=28.70円、1オーストラリアドル=76.57円、1ニュージーランドドル=69.65円、100インドネシアルピア=0.73円、1南アフリカランド=6.13円です。

ミルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（毎月分配型）

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年3月16日)、(2020年4月15日)、(2020年5月15日)、(2020年6月15日)、(2020年7月15日)、(2020年8月17日)現在

項目	第138期末	第139期末	第140期末	第141期末	第142期末	第143期末
(A) 資産	2,380,684,931円	2,291,449,142円	2,270,649,406円	2,389,983,535円	2,371,969,656円	2,324,425,287円
コール・ローン等	16,727,539	16,779,124	16,765,687	16,788,443	16,865,078	16,886,017
モルガン・スタンレー 先進国高 金利通貨マザーファンド(評価額)	1,205,157,160	1,203,450,625	1,191,732,692	1,235,875,060	1,242,058,503	1,250,958,493
モルガン・スタンレー 新興国高 金利通貨マザーファンド(評価額)	1,149,641,294	1,063,456,483	1,052,034,475	1,129,520,032	1,102,998,219	1,046,415,909
未収入金	9,158,938	7,762,910	10,116,552	7,800,000	10,047,856	10,164,868
(B) 負債	9,517,731	7,774,902	10,092,347	7,722,072	10,463,382	10,945,636
未払収益分配金	5,504,261	5,482,931	5,447,160	5,424,694	5,363,660	5,305,022
未払解約金	1,770,474	132,910	2,516,551	—	2,875,655	3,216,507
未払信託報酬	2,047,110	1,970,141	1,942,693	2,096,702	2,029,796	2,212,367
未払利息	—	43	48	45	43	41
その他未払費用	195,886	188,877	185,895	200,631	194,228	211,699
(C) 純資産総額(A-B)	2,371,167,200	2,283,674,240	2,260,557,059	2,382,261,463	2,361,506,274	2,313,479,651
元本	5,504,261,274	5,482,931,085	5,447,160,593	5,424,694,311	5,363,660,314	5,305,022,796
次期繰越損益金	△3,133,094,074	△3,199,256,845	△3,186,603,534	△3,042,432,848	△3,002,154,040	△2,991,543,145
(D) 受益権総口数	5,504,261,274口	5,482,931,085口	5,447,160,593口	5,424,694,311口	5,363,660,314口	5,305,022,796口
1万口当たり基準価額(C/D)	4,308円	4,165円	4,150円	4,392円	4,403円	4,361円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

1. 作成期首元本額
作成期中追加設定元本額
作成期中一部解約元本額
2. 元本の欠損
貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は2,991,543,145円（第143期末）であります。

5,677,671,482円

9,791,904円

382,440,590円

ミルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（毎月分配型）

■損益の状況

第138期（自2020年2月18日 至2020年3月16日）、第141期（自2020年5月16日 至2020年6月15日）
 第139期（自2020年3月17日 至2020年4月15日）、第142期（自2020年6月16日 至2020年7月15日）
 第140期（自2020年4月16日 至2020年5月15日）、第143期（自2020年7月16日 至2020年8月17日）

項目	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期	第143期
(A) 配当等収益	△1,170円	△390円	△830円	△1,498円	△1,331円	△1,374円
支 払 利 息	△1,170	△390	△830	△1,498	△1,331	△1,374
(B) 有価証券売買損益	△241,655,871	△70,673,452	△663,198	138,745,278	13,600,622	△14,515,122
売 買 益	2,746,646	7,474,141	364,075	139,354,184	23,202,901	25,653,134
売 買 損	△244,402,517	△78,147,593	△1,027,273	△608,906	△9,602,279	△40,168,256
(C) 信託報酬等	△2,242,996	△2,159,834	△2,129,251	△2,297,333	△2,224,024	△2,424,066
(D) 当期損益金(A+B+C)	△243,900,037	△72,833,676	△2,793,279	136,446,447	11,375,267	△16,940,562
(E) 前期継越損益金	△2,325,250,571	△2,563,882,739	△2,624,098,484	△2,620,650,949	△2,460,874,166	△2,427,272,086
(F) 追加信託差損益金	△558,439,205	△557,057,499	△554,264,611	△552,803,652	△547,291,481	△542,025,475
(配当等相当額)	(5,181,371)	(5,177,610)	(5,161,965)	(5,158,938)	(5,119,228)	(5,082,840)
(売買損益相当額)	(△563,620,576)	(△562,235,109)	(△559,426,576)	(△557,962,590)	(△552,410,709)	(△547,108,315)
(G) 計 (D+E+F)	△3,127,589,813	△3,193,773,914	△3,181,156,374	△3,037,008,154	△2,996,790,380	△2,986,238,123
(H) 収益分配金	△5,504,261	△5,482,931	△5,447,160	△5,424,694	△5,363,660	△5,305,022
次期継越損益金(G+H)	△3,133,094,074	△3,199,256,845	△3,186,603,534	△3,042,432,848	△3,002,154,040	△2,991,543,145
追加信託差損益金	△558,439,205	△557,057,499	△554,264,611	△552,803,652	△547,291,481	△542,025,475
(配当等相当額)	(5,182,551)	(5,179,157)	(5,163,463)	(5,160,546)	(5,120,775)	(5,084,537)
(売買損益相当額)	(△563,621,756)	(△562,236,656)	(△559,428,074)	(△557,964,198)	(△552,412,256)	(△547,110,012)
分配準備積立金	49,896,480	52,145,042	53,466,599	58,909,885	61,770,202	65,132,950
継 越 損 益 金	△2,624,551,349	△2,694,344,388	△2,685,805,522	△2,548,539,081	△2,516,632,761	△2,514,650,620

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

＜注記事項＞

(損益および剩余金計算書関係)

分配金の計算過程

第138期計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,124,736円)、費用控除後の有価証券等損益額(−円)、信託約款に規定する収益調整金(5,182,551円)および分配準備積立金(47,276,005円)より分配対象収益は60,583,292円(10,000口当たり110円)であり、うち5,504,261円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

第139期計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,926,238円)、費用控除後の有価証券等損益額(−円)、信託約款に規定する収益調整金(5,179,157円)および分配準備積立金(49,701,735円)より分配対象収益は62,807,130円(10,000口当たり114円)であり、うち5,482,931円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

第140期計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,103,074円)、費用控除後の有価証券等損益額(−円)、信託約款に規定する収益調整金(5,163,463円)および分配準備積立金(51,810,685円)より分配対象収益は64,077,222円(10,000口当たり117円)であり、うち5,447,160円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

第141期計算期間末における費用控除後の配当等収益(11,099,984円)、費用控除後の有価証券等損益額(−円)、信託約款に規定する収益調整金(5,160,546円)および分配準備積立金(53,234,595円)より分配対象収益は69,495,125円(10,000口当たり128円)であり、うち5,424,694円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

第142期計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,866,725円)、費用控除後の有価証券等損益額(−円)、信託約款に規定する収益調整金(5,120,775円)および分配準備積立金(58,267,137円)より分配対象収益は72,254,637円(10,000口当たり134円)であり、うち5,363,660円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

第143期計算期間末における費用控除後の配当等収益(9,325,692円)、費用控除後の有価証券等損益額(−円)、信託約款に規定する収益調整金(5,084,537円)および分配準備積立金(61,112,280円)より分配対象収益は75,522,509円(10,000口当たり142円)であり、うち5,305,022円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

ミルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（毎月分配型）

■分配金

1万口当たり分配金（税込み）	第138期	第139期	第140期	第141期	第142期	第143期
	10円	10円	10円	10円	10円	10円

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により普通分配金と特別分配金にわかれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が特別分配金、残りの部分が普通分配金となります。
- ・特別分配金が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後個々の受益者の個別元本となります。

■お知らせ

該当事項はありません。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要	
	(2020年2月18日～2020年8月17日)			
	金額	比率		
a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	44円 (21) (21) (2)	0.520% (0.246) (0.246) (0.027)	a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価	
b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	7 (3) (3) (1)	0.087 (0.037) (0.037) (0.013)	b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用	
合計	51	0.607		

当期中の平均基準価額は、8,532円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

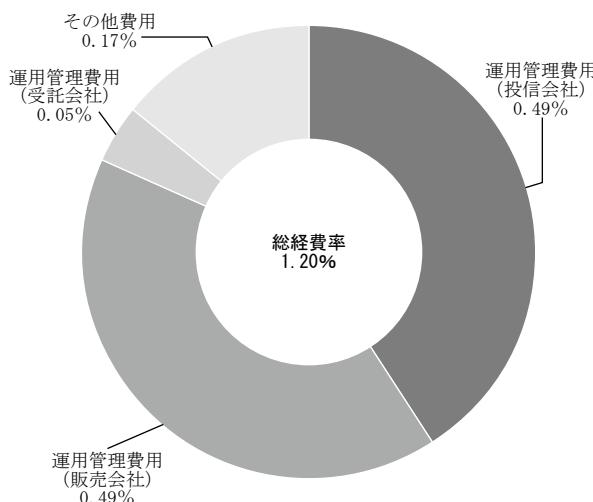
(注2) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 「金額」欄は、各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

(参考情報) 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.20%です。



(注1) 各費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（年2回決算型）

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況（2020年2月18日から2020年8月17日まで）

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド	千口 1,342	千円 1,299	千口 17,827	千円 17,928
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド	1,402	1,299	18,336	17,928

（注）単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況（2020年2月18日から2020年8月17日まで）

期中における利害関係人との取引はありません。

（注）利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細

（2020年8月17日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド	千口 404,727	千口 388,242	千円 403,617
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド	415,605	398,671	376,386

（注1）口数・評価額の単位未満は切捨て。

（注2）当期末におけるモルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド全体の口数は1,591,550千口、モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド全体の口数は1,507,045千口です。

■投資信託財産の構成

（2020年8月17日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド	千円 403,617	% 51.3
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド	376,386	47.8
コ ー ル・ロ ー ン 等、そ の 他	7,146	0.9
投 資 信 託 財 産 総 額	787,149	100.0

（注1）モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（1,660,321千円）の投資信託財産総額（1,662,220千円）に対する比率は99.9%です。

（注2）モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（1,423,147千円）の投資信託財産総額（1,430,564千円）に対する比率は99.5%です。

（注3）外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、2020年8月17日現在における邦貨換算レートは、1米ドル=106.55円、1メキシコペソ=4.85円、1ブラジルレアル=19.64円、1ノルウェークローネ=11.99円、1トルコリラ=14.47円、1ポーランドズロチ=28.70円、1オーストラリアドル=76.57円、1ニュージーランドドル=69.65円、100インドネシアルピア=0.73円、1南アフリカランド=6.13円です。

モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信（年2回決算型）

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年8月17日) 現在

項目	当期末
(A) 資産	787,149,719円
コール・ローン等	1,933,532
モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド(評価額)	403,617,108
モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド(評価額)	376,386,145
未収入金	5,212,934
(B) 負債	5,202,501
未払解約金	722,933
未払信託報酬	4,088,382
未払利息	4
その他未払費用	391,182
(C) 純資産総額(A-B)	781,947,218
元本	905,602,650
次期繰越損益金	△123,655,432
(D) 受益権総口数	905,602,650口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,635円

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等は信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項>

(貸借対照表関係)

1. 期首元本額	937,038,051円
期中追加設定元本額	3,131,155円
期中一部解約元本額	34,566,556円
2. 元本の欠損	
貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は123,655,432円あります。	

■損益の状況

当期 (自2020年2月18日 至2020年8月17日)

項目	当期
(A) 配当等収益	△702円
支払利息	△702
(B) 有価証券売買損益	△58,904,956
売買益	8,690,128
売買損	△67,595,084
(C) 信託報酬等	△4,479,780
(D) 当期損益金(A+B+C)	△63,385,438
(E) 前期繰越損益金	△39,114,032
(F) 追加信託差損益金	△21,155,962
(配当等相当額)	(23,315,420)
(売買損益相当額)	(△44,471,382)
(G) 計(D+E+F)	△123,655,432
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△123,655,432
追加信託差損益金	△21,155,962
(配当等相当額)	(23,321,179)
(売買損益相当額)	(△44,477,141)
分配準備積立金	532,193,542
繰越損益金	△634,693,012

■分配金

1万口当たり分配金(税込み)

0円

■お知らせ

該当事項はありません。

モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド 一第12期一
決算日 2020年8月17日／計算期間（2019年8月16日から2020年8月17日まで）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主として、世界先進主要国の中で相対的に金利水準が高い通貨の中から、為替見通しを勘案して複数の通貨を選定し、当該通貨建ての債券および短期金融商品等に投資を行うことにより、安定したインカムゲインの獲得と中長期的な投資信託財産の成長を目指します。 国別のファンダメンタルズ分析を行い、債券および通貨のバリュエーション分析等に基づいて国および銘柄を選定します。 市況動向、資金動向、投資環境の変化等により、上記のような運用ができない場合があります。
主要運用対象	世界先進主要国の債券および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。 株式への投資は、新株予約権付社債等の権利行使により取得した株券等に限ります。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

■運用経過（2019年8月16日から2020年8月17日まで）

基準価額の主な変動要因

当期は、為替市場において高金利通貨が平均的に対日本円で上昇したことや、安定したインカム・ゲインを獲得したことで、基準価額は上昇し、期首に9,921円でスタートした基準価額は期末には10,396円となりました。

投資環境

当初は、米中貿易問題の部分的な進展が期待されたことや、グローバル景気に対する楽観的な見方を背景に、投資家センチメントが回復し、高金利通貨は全般的に上昇する展開となりました。一方、その後は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景に、グローバルに景気の急激な悪化が懸念されたことや、金融市場におけるリスク回避的な動きを受けて、高金利通貨は下落する展開となりました。

ポートフォリオ

ポートフォリオの運用においては、相対的に金利水準が高く為替見通しが良好な先進国の5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行いました。投資にあたっては先進国通貨の中から相対的に金利水準の高い通貨／国を選定し、経済ファンダメンタルズ、各国の経済・財政政策、為替のトレンド等を分析し為替見通しが良好な通貨／国を投資対象としました。



（注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

(1) 投資通貨について

期首時には、相対的に金利水準が高く為替見通しが良好な以下の5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行いました。

《期首の投資対象通貨》

●モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド

オーストラリア・ドル
ニュージーランド・ドル
ノルウェー・クローネ
米ドル
ポーランド・ズロチ

期首より中長期的な観点からバリュエーションや相対的な金利水準、経済ファンダメンタルズ等の通貨に対する投資魅力度が変化していないと判断し投資通貨の入替を行いませんでした。

以上の投資行動の結果、期末時点では、以下の5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行っております。

《期末の投資対象通貨》

●モルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド

オーストラリア・ドル
ニュージーランド・ドル
ノルウェー・クローネ
米ドル
ポーランド・ズロチ

(2) 投資債券について

国債を中心に組入れつつ、流動性が高く信用力も高いものの、国債よりも高い利回りを有していた国際機関債へ一部投資を行い、より高いインカム・ゲインの収益獲得を目指しました。

ベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、運用の目標となるベンチマークおよび参考指数は設定しておりませんので、当項目に記載する事項はありません。

■今後の運用方針

今後の運用方針に関しては、運用の基本方針に基づき、先進国通貨の投資対象候補国の中から相対的に金利水準の高い通貨／国を選定し、経済ファンダメンタルズ、各国の経済・財政政策、為替のトレンド等を分析し為替見通しが良好な5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行う方針です。当面の市場環境および投資方針は以下の様に考えております。

(1) 市場環境について

欧米各国では経済再開の動きが徐々に確認されつつあり、また、足元の経済指標は懸念された程には悪化していないものの、今後についても引き続き新型コロナウイルス感染動向次第の側面が強く不透明感の強い展開が想定されます。一方、先進国主要中銀による金融緩和政策が強化されていることを背景に、先進国債券市場を中心に低金利環境が長期化する中、金融市場が落ち着きを取り戻すに従い、高金利通貨に対しては相対的に高い利回りを求めるような投資家からの資金フローが期待されると考えています。

(2) 投資方針について

以上のような見通しのもと、当ファンドでは、相対的に高金利で経済ファンダメンタルズが良好であり、通貨見通しが良好な通貨／国へ投資を行う方針です。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	債券		債券率
		騰	落	
(期 首) 2019年 8月15日	円 9,921		% —	% 98.2
8月末	9,863	△0.6		98.0
9月末	9,992	0.7		98.1
10月末	10,260	3.4		97.6
11月末	10,234	3.2		98.1
12月末	10,544	6.3		98.5
2020年 1月末	10,224	3.1		97.5
2月末	10,100	1.8		98.0
3月末	9,500	△4.2		97.9
4月末	9,554	△3.7		58.8
5月末	9,854	△0.7		97.5
6月末	10,058	1.4		98.1
7月末	10,208	2.9		98.2
(期 末) 2020年 8月17日	10,396	4.8		97.6

(注1) 謄落率は期首比です。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注3) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指標がないためベンチマークおよび参考指標は設定しておりません。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要	
	(2019年8月16日～2020年8月17日)			
	金額	比率		
その他費用 (保管費用)	2円 (2)	0.024% (0.024)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用	
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務処理に要するその他の諸費用	
合計	2	0.024		

当期中の平均基準価額は、10,032円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注3) 「金額」欄は、各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

ミルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド

■売買および取引の状況 (2019年8月16日から2020年8月17日まで)

公社債

			買付額	売付額
外 国	アメリカ	国債証券	千米ドル 3,044	千米ドル 699 (2,830)
	ノルウェー	国債証券	千ノルウェークローネ 3,219	千ノルウェークローネ 5,095
	ポーランド	国債証券	千ポーランドズロチ 368	千ポーランドズロチ 1,735
	オーストラリア	国債証券	千オーストラリアドル 4,870	千オーストラリアドル 633 (4,840)
	ニュージーランド	国債証券	千ニュージーランドドル 4,682	千ニュージーランドドル 403 (4,800)

(注1) 金額は受渡し代金。 (経過利子分は含まれておりません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) () 内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■利害関係人との取引状況等 (2019年8月16日から2020年8月17日まで)

期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細 (2020年8月17日現在)

公社債

(A) 債券種類別開示

外国(外貨建)公社債

区分	当期						期末		
	額面金額	評価額		組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率			
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満	
アメリカ	千米ドル 2,920	千米ドル 2,931	千円 312,373	% 18.9	% —	% —	% —	% 18.9	
ノルウェー	千ノルウェークローネ 27,170	千ノルウェークローネ 27,946	335,074	20.3	—	—	—	—	20.3
ポーランド	千ポーランドズロチ 11,010	千ポーランドズロチ 11,129	319,418	19.3	—	—	—	—	19.3
オーストラリア	千オーストラリアドル 4,310	千オーストラリアドル 4,328	331,415	20.0	—	—	—	—	20.0
ニュージーランド	千ニュージーランドドル 4,370	千ニュージーランドドル 4,556	317,350	19.2	—	—	—	—	19.2
合計	—	—	1,615,632	97.6	—	—	—	—	97.6

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額・評価額の単位未満は切捨て。

(注4) —印は組入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 個別銘柄開示

外国(外貨建)公社債

銘柄	当期						償還年月日
	種類	利率	額面金額	評価額			
				外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ) US TREASURY	国債証券	% 1.75	千米ドル 2,920	千米ドル 2,931	千円 312,373		2020/11/15
小計					312,373		
(ノルウェー) NORWAY	国債証券	3.75	千ノルウェークローネ 27,170	千ノルウェークローネ 27,946	335,074		2021/5/25
小計					335,074		
(ポーランド) POLAND	国債証券	5.25	千ポーランドズロチ 11,010	千ポーランドズロチ 11,129	319,418		2020/10/25
小計					319,418		
(オーストラリア) AUSTRALIA	国債証券	1.75	千オーストラリアドル 4,310	千オーストラリアドル 4,328	331,415		2020/11/21
小計					331,415		

ミルガン・スタンレー 先進国高金利通貨マザーファンド

銘 柄	当 期 末					
	種 類	利 率	額 面 金 額	評 價 額		償還年月日
			外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額		
(ニュージーランド) NEW ZEALAND	国債証券	% 6.0	千ニュージーランドドル 4,370	千ニュージーランドドル 4,556	千円 317,350	2021/ 5/15
小 計					317,350	
合 計					1,615,632	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切捨てて。

■投資信託財産の構成

(2020年8月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 價 額	比 率
公 社 債	千円 1,615,632	% 97.2
コ ー ル・ロ ー ン 等 、 そ の 他	46,588	2.8
投 資 信 託 財 産 総 額	1,662,220	100.0

(注1) 当期末における外貨建純資産(1,660,321千円)の投資信託財産総額(1,662,220千円)に対する比率は99.9%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、2020年8月17日における邦貨換算レートは、1米ドル=106.55円、1ノルウェークローネ=11.99円、1ポーランドズロチ=28.70円、1オーストラリアドル=76.57円、1ニュージーランドドル=69.65円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年8月17日) 現在

項目	当期末
(A) 資産	1,667,956,005円
コール・ローン等	25,421,192
公社債(評価額)	1,615,632,348
未収入金	5,735,400
未収利息	20,850,822
前払費用	316,243
(B) 負債	13,426,905
未払資金	5,738,000
未払解約金	7,688,901
未払利息	4
(C) 純資産総額(A-B)	1,654,529,100
元本	1,591,550,214
次期繰越損益金	62,978,886
(D) 受益権総口数	1,591,550,214口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,396円

■損益の状況

当期 (自2019年8月16日 至2020年8月17日)

項目	当期
(A) 配当等収益	49,911,177円
受取利息	49,915,797
支払利息	△4,620
(B) 有価証券売買損益	29,913,240
売買益	67,796,476
売買損	△37,883,236
(C) 信託報酬等	△415,001
(D) 当期損益金(A+B+C)	79,409,416
(E) 前期繰越損益金	△14,451,092
(F) 追加信託差損益金	115,423
(G) 解約差損益金	△2,094,861
(H) 計(D+E+F+G)	62,978,886
次期繰越損益金(H)	62,978,886

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等は、外貨建資産の保管に係る費用等です。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項>

(貸借対照表関係)

期首元本額	1,830,261,260円
期中追加設定元本額	12,311,450円
期中一部解約元本額	251,022,496円
期末における元本の内訳	
モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信 (毎月分配型)	1,203,307,516円
モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信 (年2回決算型)	388,242,698円
期末元本額合計	1,591,550,214円

■お知らせ

該当事項はありません。

モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド 一第12期一
決算日 2020年8月17日／計算期間（2019年8月16日から2020年8月17日まで）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主として、新興国の中で相対的に金利水準が高い通貨の中から、為替見通しを勘査して複数の通貨を選定し、当該通貨建ての債券および短期金融商品等に投資を行うことにより、安定したインカムゲインの獲得と中長期的な投資信託財産の成長を目指します。
主要運用対象	国別のファンダメンタルズ分析を行い、債券および通貨のバリュエーション分析等に基づいて国および銘柄を選定します。 市況動向、資金動向、投資環境の変化等により、上記のような運用ができない場合があります。
組入制限	新興国の債券および短期金融商品を主要投資対象とします。 株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。 株式への投資は、新株予約権付社債等の権利行使により取得した株券等に限ります。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

■運用経過（2019年8月16日から2020年8月17日まで）

基準価額の主な変動要因

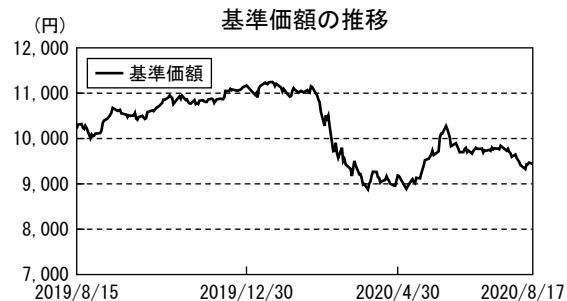
当期は、安定したインカム・ゲインを獲得した一方で、為替市場において高金利通貨が平均的に対日本円で下落したため、基準価額は下落し、期首に10,220円でスタートした基準価額は期末には9,441円となりました。

投資環境

当初は、米中貿易問題の部分的な進展が期待されたこと等を背景に、新興国市場も安定的な推移となりました。一方、その後は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景に、グローバルに景気の急激な悪化が懸念されたことや、金融市場におけるリスク回避的な動きを受けて、新興国市場から投資家資金が流出したことによって、新興国通貨は下落する展開となりました。

ポートフォリオ

ポートフォリオの運用においては、相対的に金利水準が高く為替見通しが良好な新興国の5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行いました。投資にあたっては新興国通貨の中から相対的に金利水準の高い通貨／国を選定し、経済ファンダメンタルズ、各国の経済・財政政策、為替のトレンド等を分析し為替見通しが良好な通貨／国を投資対象としました。



(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指標がないためベンチマークおよび参考指標は設定しておりません。

モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド

(1) 投資通貨について

期首時には、相対的に金利水準が高く為替見通しが良好な以下の5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行いました。

《期首の投資対象通貨》

●モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド

メキシコ・ペソ
ブラジル・レアル
インドネシア・ルピア
南アフリカ・ランド
トルコ・リラ

期首より中長期的な観点からバリュエーションや相対的な金利水準、経済ファンダメンタルズ等の通貨に対する投資魅力度が変化していないと判断し投資通貨の入替を行いませんでした。

以上の投資行動の結果、期末時点では、以下の5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行っております。

《期末の投資対象通貨》

●モルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド

メキシコ・ペソ
ブラジル・レアル
インドネシア・ルピア
南アフリカ・ランド
トルコ・リラ

(2) 投資債券について

各国の経済動向に注視し、国債を中心に組入れつつ、インカム・ゲインを主体とした収益の獲得を目指しました。

ベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、運用の目標となるベンチマークおよび参考指数は設定しておりませんので、当項目に記載する事項はありません。

■今後の運用方針

今後の運用方針に関しては、運用の基本方針に基づき、新興国通貨の投資対象候補国の中から相対的に金利水準の高い通貨／国を選定し、経済ファンダメンタルズ、各国の経済・財政政策、為替のトレンド等を分析し為替見通しが良好な5通貨へ配分が概ね均等となるように投資を行う方針です。当面の市場環境および投資方針は以下の様に考えております。

(1) 市場環境について

欧米各国では経済再開の動きが徐々に確認されつつあり、また、足元の経済指標は懸念された程には悪化していないものの、今後についても引き続き新型コロナウイルス感染動向次第の側面が強く不透明感の強い展開が想定されます。一方、先進国主要中銀による金融緩和政策が強化されていることを背景に、先進国債券市場を中心に低金利環境が長期化する中、金融市場が落ち着きを取り戻すに従い、高金利通貨に対しては相対的に高い利回りを求めるような投資家からの資金フローが期待されると考えています。

新興国に関しても、グローバルに緩和的な金融政策がサポート要因として期待されます。リスク回避的な米ドル高の可能性は警戒されるものの、これまでの積極的な米ドル供給策が米ドルの上昇を抑制する要因となり、5月以降徐々に米ドル安傾向に転じていることは、新興国通貨のサポート要因になると考えられます。なお、資源価格下落の恩恵を受けやすい経済構造の国がある一方で、資源依存の経済構造の改革が必要な国があることや、新型コロナウイルス問題の影響次第では、経済ファンダメンタルズの格差が広がりやすいことに注視が必要と考えています。

(2) 投資方針について

以上のような見通しのもと、当ファンドでは、相対的に高金利で経済ファンダメンタルズが良好であり、通貨見通しが良好な通貨／国へ投資を行う方針です。また、組入れ債券においては、各国の国債へ投資を行いつつインカム・ゲインを主体とした収益の獲得を目指し、各国の金融政策動向を分析することでキャピタル・ゲインからの収益獲得も目指す方針です。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

上記は将来の市況環境の変動等を保証するものではなく、このため、将来の投資成果等を保証するものではありません。

■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	債券		債先物比率	券率
		騰	落		
(期 首) 2019年 8月15日	円 10,220		% —	% 98.0	% —
8月末	10,107	△1.1		96.6	—
9月末	10,506	2.8		96.9	—
10月末	10,899	6.6		96.7	—
11月末	10,858	6.2		96.1	—
12月末	11,170	9.3		97.1	—
2020年 1月末	11,016	7.8		97.4	—
2月末	10,591	3.6		97.4	—
3月末	9,216	△9.8		97.0	—
4月末	9,185	△10.1		97.0	—
5月末	9,637	△5.7		95.8	—
6月末	9,726	△4.8		96.3	—
7月末	9,596	△6.1		97.2	—
(期 末) 2020年 8月17日	9,441	△7.6		97.8	—

(注1) 謄落率は期首比です。

(注2) 債券先物比率は買建比率・売建比率。

(注3) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指標がないためベンチマークおよび参考指標は設定しておりません。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2019年8月16日～2020年8月17日)	金額	
その他費用 (保管費用)	12円 (11)	0.113% (0.111)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務処理に要するその他の諸費用
合計	12	0.113	

当期中の平均基準価額は、10,208円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注3) 「金額」欄は、各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

ミルガン・スタンレー 新興国高金利通貨マザーファンド

■売買および取引の状況 (2019年8月16日から2020年8月17日まで)

公社債

			買付額	売付額
外 国	メキシコ	国債証券	千メキシコペソ 30,240	千メキシコペソ 12,843 (28,209)
	ブラジル	国債証券	千ブラジルレアル 14,381	千ブラジルレアル 14,279
	トルコ	国債証券	千トルコリラ 16,323	千トルコリラ 4,686 (16,337)
	インドネシア	国債証券	千インドネシアルピア —	千インドネシアルピア 9,765,870
	南アフリカ	国債証券	千南アフリカランド 25,500	千南アフリカランド 9,503 (25,245)

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) () 内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■利害関係人との取引状況等 (2019年8月16日から2020年8月17日まで)

期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細 (2020年8月17日現在)

公社債

(A) 債券種類別開示

外国(外貨建) 公社債

区分	当期					期末		
	額面金額	評価額		組入比率	うちB級以下組入比率	残存期間別組入比率		
	外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満	
メキシコ	千メキシコペソ 58,328	千メキシコペソ 60,316	千円 292,537	% 20.6	% —	% —	% 20.6	% —
ブラジル	千ブラジルレアル 12,565	千ブラジルレアル 14,181	278,528	19.6	19.6	—	19.6	—
トルコ	千トルコリラ 18,100	千トルコリラ 17,093	247,347	17.4	17.4	—	14.2	3.1
インドネシア	千インドネシアルピア 37,720,000	千インドネシアルピア 40,513,166	295,746	20.8	—	—	—	20.8
南アフリカ	千南アフリカランド 44,340	千南アフリカランド 45,235	277,294	19.5	19.5	—	—	19.5
合計	—	—	1,391,453	97.8	56.5	—	33.8	64.0

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額・評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 一印は組入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 個別銘柄開示

外国（外貨建）公社債

銘柄	当期末					
	種類	利率	額面金額	評価額	外貨建金額	邦貨換算金額
(メキシコ) MEXICO MEXICO	国債証券	% 7.25 6.5	千メキシコペソ 28,960 29,368	千メキシコペソ 29,977 30,339	千円 145,391 147,145	2021/12/9 2022/6/9
小計					292,537	
(ブラジル) BRAZIL	国債証券	10.0	千ブラジルレアル 12,565	千ブラジルレアル 14,181	278,528	2023/1/1
小計					278,528	
(トルコ) TURKEY TURKEY TURKEY	国債証券	9.2 8.5 12.2	千トルコリラ 3,200 6,350 8,550	千トルコリラ 3,091 5,768 8,233	44,729 83,477 119,140	2021/9/22 2022/9/14 2023/1/18
小計					247,347	
(インドネシア) INDONESIA	国債証券	12.8	千インドネシアルピア 37,720,000	千インドネシアルピア 40,513,166	295,746	2021/6/15
小計					295,746	
(南アフリカ) SOUTH AFRICA	国債証券	6.75	千南アフリカランド 44,340	千南アフリカランド 45,235	277,294	2021/3/31
小計					277,294	
合計					1,391,453	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切捨てて。

■投資信託財産の構成

(2020年8月17日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
公社債	千円 1,391,453	% 97.3
コール・ローン等、その他	39,111	2.7
投資信託財産総額	1,430,564	100.0

(注1) 当期末における外貨建純資産（1,423,147千円）の投資信託財産総額（1,430,564千円）に対する比率は99.5%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、2020年8月17日における邦貨換算レートは、1米ドル=106.55円、1メキシコペソ=4.85円、1ブラジルレアル=19.64円、1トルコリラ=14.47円、100インドネシアルピア=0.73円、1南アフリカランド=6.13円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年8月17日) 現在

項目	当期末
(A) 資産	1,433,552,471円
コール・ローン等	14,477,888
公社債(評価額)	1,391,453,673
未収入金	3,000,000
未収利息	24,373,046
前払費用	247,864
(B) 負債	10,677,306
未払金	2,988,387
未払解約金	7,688,901
未払利息	18
(C) 純資産総額(A-B)	1,422,875,165
元本	1,507,045,922
次期繰越損益金	△84,170,757
(D) 受益権総口数	1,507,045,922口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,441円

■損益の状況

当期 (自2019年8月16日 至2020年8月17日)

項目	当期
(A) 配当等収益	128,670,447円
受取利息	128,674,263
支払利息	△3,816
(B) 有価証券売買損益	△228,423,914
売買益	40,632,659
売買損	△269,056,573
(C) 信託報酬等	△1,946,661
(D) 当期損益金(A+B+C)	△101,700,128
(E) 前期繰越損益金	42,291,665
(F) 追加信託差損益金	505,665
(G) 解約差損益金	△25,267,959
(H) 計(D+E+F+G)	△84,170,757
次期繰越損益金(H)	△84,170,757

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等は、外貨建資産の保管に係る費用等です。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項>

(貸借対照表関係)

1. 期首元本額	1,918,419,262円
期中追加設定元本額	11,921,208円
期中一部解約元本額	423,294,548円
期末における元本の内訳	
モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信(毎月分配型)	1,108,374,017円
モルガン・スタンレー 世界高金利通貨投信(年2回決算型)	398,671,905円
期末元本額合計	1,507,045,922円

2. 元本の欠損

貸借対照表上の純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は84,170,757円であります。

■お知らせ

本投資信託の運用委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクが、運用権限の一部をモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッド(英国法人)に更に委託することができるよう、英国法人を運用再委託先として追加する約款変更を行いました。(2019年11月16日付)